

今月はICOの1月コーヒーマーケットレポートに加え、トピックス（1）として全米コーヒー協会ウェブサイトから米国連邦政府が最近発行した『米国民食生活指針』に関する同協会のコメントをトピックス（2）としてFNCホームページからコロンビアの2015暦年の生産量、輸出量の記事をお届けします。



ロブスタコーヒーの価格が5年半振りの安値に

1月のコーヒー価格は主にロブスタコーヒー価格の下落に引きずられ2年ぶりの安値となった。2015/16コーヒー年度第一四半期の輸出量は前年度四半期に比べ2.6%増え26.9百万袋となりこの時期としては供給不安のない状況となっている。CONAB（ブラジル食糧供給公社）が2016/17年度のブラジルの第一回コーヒー生産量見通しを発表したが、2年連続の不作が続いた後、暫定数値ではあるが2012/13、2013/14年度の生産記録を上回る数量にまで回復するとの内容であり、これも価格を押し下げる要因となった。

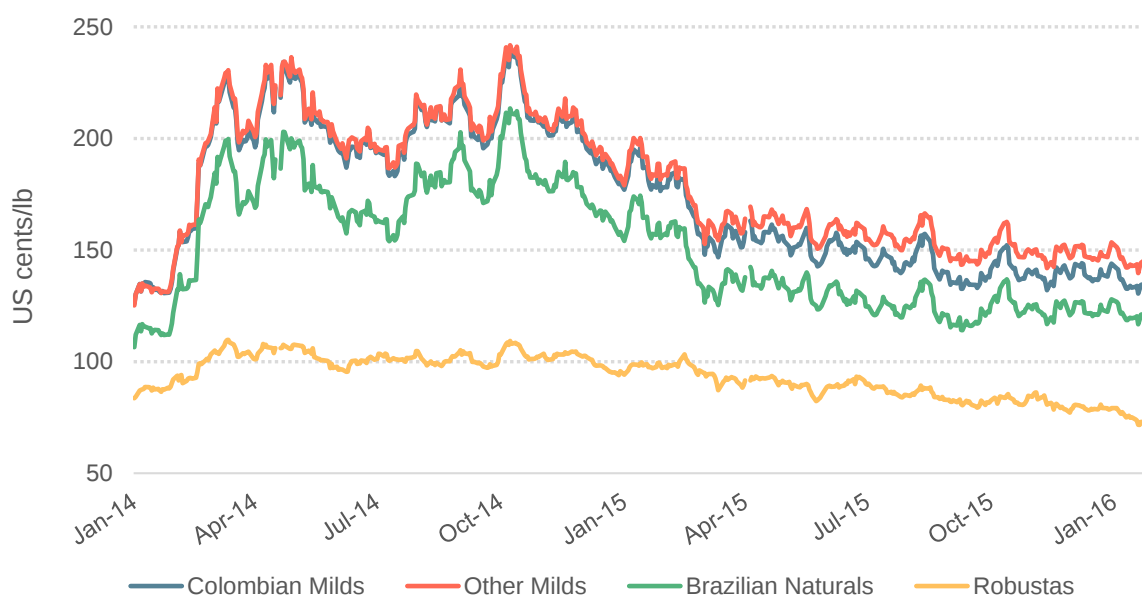
グラフ 1: ICO 日次複合指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

1月、コーヒー価格は更に下がり、ICO複合指標価格の月間平均は3.3%低い110.89セントになり、2014年1月以来の最安値水準となった。日次価格は1月20日にこの月の最安値となる106.74セントを付けたがこれは2014年1月2日以来の最安値である。この急落は原油価格の下げに引きずられた幅広いコモディティー価格全般の崩落に同調したものである。コーヒー価格は月末にかけ若干値を戻したとは言えるものの引き続き非常に低い水準に留まっている。

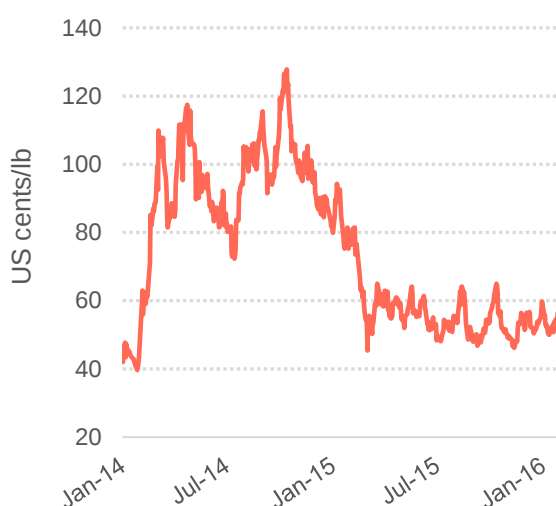
グラフ 2: ICO 日次グループ指標価格



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

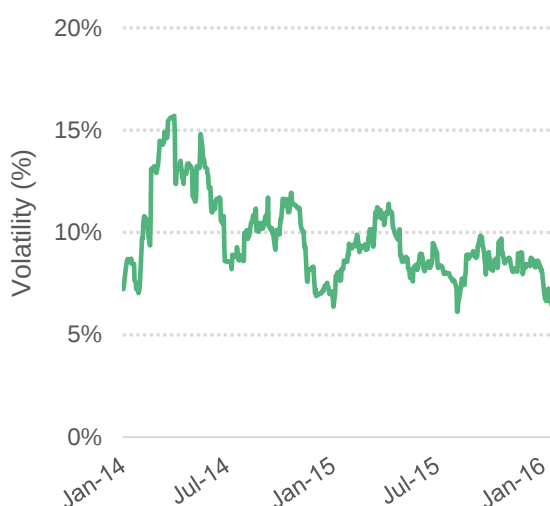
この価格の下げは特にロブスタグループにおいて顕著で、5.8%下落し、74.71セントとなったが、これは2010年5月の月間平均価格以来の安値水準である。ベトナムのニュークロップの収穫開始及び豊富な期初在庫に裏打ちされた十二分な供給可能量の存在が主な下落要因である。3アラビカグループの価格も、供給見通しが良いため下落し、コロンビアマイルド、アザーマイルド、ブラジルナチュラルのグループ指標価格が夫々3.3%、2.4%、2%下がった。

グラフ 3: ニューヨークとロンドン先物市場のアービトラージ



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

グラフ 4: ICO 複合指標価格の30日移動平均価格変動率

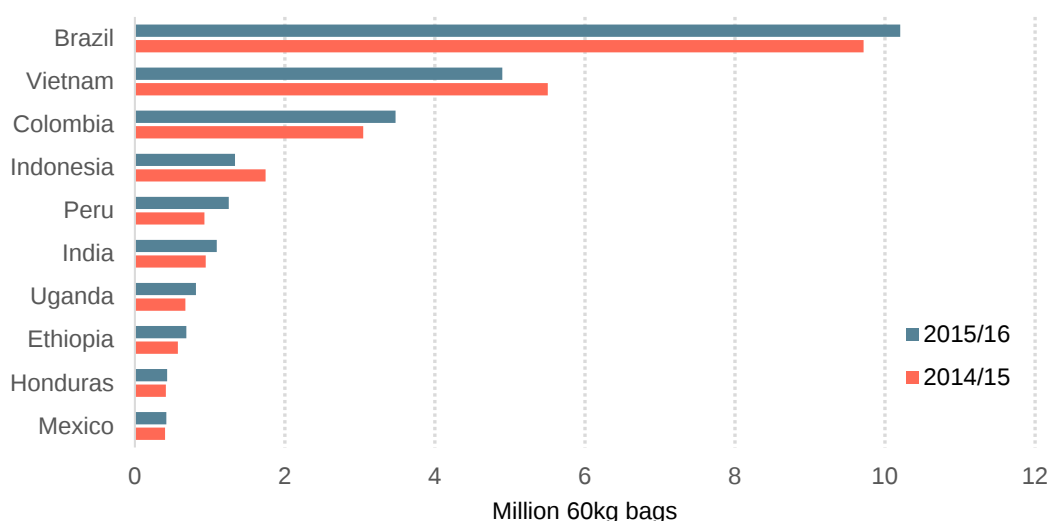


© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

2015年12月の全輸出量は、2014年12月に比べ1.3%少ない9.3百万袋となった。これにより2015/16年度の第一四半期（10月～12月）の総輸出量は前年同期間に比べ2.6%多い26.9百万袋となった。アラビカコーヒーの輸出量は11%増え17.6百万袋となったが、コロンビアコーヒーの輸出量の伸びがもっとも大きく、同国は2001/02年度四半期以来の記録となる3.5百万袋を輸出した。アザーマイルドの輸出量は11.7%増加し、ブラジルナチュラルも9.6%増えた。

一方、ロブスタコーヒーの輸出量は前年比10.1%少ない見通しだが、これは2大輸出国のベトナムとブラジルの輸出量がそれぞれ11%、23.4%少なくなったことによるものである。しかし、ベトナムの輸出量は増え始めたようで、12月の輸出量は2百万袋となり、単月としては2015年3月以来の月間輸出量記録となった。

グラフ 5: 主要輸出国の10月～12月の輸出量



© 2016 International Coffee Organization (www.ico.org)

生産量について言えば、ブラジル政府機関であるCONABが今年4月から始まる2016/17年度の第一回生産量予測を発表した。この予測数値によると、前年度（2015/16年度）の43.2百万袋に比べ大幅に増加し49.1～51.9百万袋となっている。この予想幅の最大値は2012/13年度に記録した生産量50.8百万袋よりも多くこれまでのブラジルの生産量記録である。アラビカコーヒーの生産量は17.8～24.4%の増加予想であり、天候に恵まれたこと及び2016/17年度がブラジル2年生産サイクルの表年にあたることによるものである。ロブスタコーヒーも1.8～8%と増産予想ではあるが、2012/13年度の生産量に比べると少ない見通しである。

最後に2014暦年の世界のコーヒー消費量を若干上方修正し150.2百万袋としたが、これはいくつかの輸出国、特にアジアの生産国の国内消費量が増えたためである。

以上

表 1: ICO 指標価格及び先物価格 (US cents/lb)

	ICO Composite	Colombian Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	New York*	London*
Monthly averages							
Jan-15	148.24	185.26	190.00	163.50	98.01	173.19	89.33
Feb-15	141.10	174.11	178.89	151.90	98.36	159.55	89.76
Mar-15	127.04	154.29	160.74	133.55	92.16	139.70	82.94
Apr-15	129.02	157.06	164.00	136.70	92.06	141.79	82.71
May-15	123.49	150.19	158.48	130.38	87.56	135.22	78.03
Jun-15	124.97	152.02	159.76	130.51	90.25	135.86	80.25
Jul-15	119.77	144.52	154.45	123.64	87.12	128.59	77.16
Aug-15	121.21	146.96	156.92	127.24	85.78	132.42	76.25
Sep-15	113.14	135.55	146.15	117.83	81.50	121.66	71.53
Oct-15	118.43	143.10	153.25	127.47	82.78	129.45	72.89
Nov-15	115.03	138.63	147.98	122.95	81.74	122.35	72.04
Dec-15	114.63	139.89	148.66	123.73	79.28	123.77	70.02
Jan-16	110.89	135.21	145.03	121.21	74.71	120.20	65.67
% change between Jan-16 and Dec-15							
	-3.3%	-3.3%	-2.4%	-2.0%	-5.8%	-2.9%	-6.2%
変動率 (%)							
Dec-15	5.4	6.6	5.4	6.8	4.1	7.5	4.0
Jan-16	5.9	6.2	6.2	6.8	5.7	7.3	5.7
Variation between Jan-16 and Dec-15							
	0.6	-0.4	0.7	-0.1	1.6	-0.3	1.7

* 第 2 及び第 3 限月の平均価格

表 2: 価格差 (US cents/lb)

	Colombian Milds	Colombian Milds	Colombian Milds	Other Milds	Other Milds	Brazilian Naturals	New York*
	Other Milds	Brazilian Naturals	Robustas	Brazilian Naturals	Robustas	Robustas	London*
Jan-15	-4.74	21.76	87.25	26.50	91.99	65.49	83.86
Feb-15	-4.78	22.21	75.75	26.99	80.53	53.54	69.79
Mar-15	-6.45	20.74	62.13	27.19	68.58	41.39	56.76
Apr-15	-6.94	20.36	65.00	27.30	71.94	44.64	59.08
May-15	-8.29	19.81	62.63	28.10	70.92	42.82	57.19
Jun-15	-7.74	21.51	61.77	29.25	69.51	40.26	55.61
Jul-15	-9.93	20.88	57.40	30.81	67.33	36.52	51.43
Aug-15	-9.96	19.72	61.18	29.68	71.14	41.46	56.17
Sep-15	-10.60	17.72	54.05	28.32	64.65	36.33	50.13
Oct-15	-10.15	15.63	60.32	25.78	70.47	44.69	56.56
Nov-15	-9.35	15.68	56.89	25.03	66.24	41.21	50.31
Dec-15	-8.77	16.16	60.61	24.93	69.38	44.45	53.75
Jan-16	-9.82	14.00	60.50	23.82	70.32	46.50	54.53
% change between Jan-16 and Dec-15							
	12.0%	-13.4%	-0.2%	-4.5%	1.4%	4.6%	1.5%

* 第 2 及び第 3 限月の平均価格

表 3: 輸出国の総生産量

Crop year commencing	2012	2013	2014	2015	% change 2014-15
TOTAL	147 953	146 615	141 376	143 371	1.4%
Arabicas	88 471	87 001	84 397	84 309	-0.1%
<i>Colombian Mlds</i>	<i>11 523</i>	<i>13 488</i>	<i>14 549</i>	<i>14 853</i>	<i>2.1%</i>
<i>Other Mlds</i>	<i>29 017</i>	<i>26 822</i>	<i>25 896</i>	<i>27 244</i>	<i>5.2%</i>
<i>Brazilian Naturals</i>	<i>47 930</i>	<i>46 690</i>	<i>43 953</i>	<i>42 211</i>	<i>-4.0%</i>
Robustas	59 482	59 614	56 978	59 062	3.7%
Africa	16 668	16 271	16 085	17 074	6.1%
Asia & Oceania	45 681	46 527	44 623	46 589	4.4%
Mexico & Central America	18 481	16 585	17 390	18 462	6.2%
South America	67 122	67 233	63 278	61 246	-3.2%

単位：千袋

Full production data are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

表 4: 輸出国の総輸出量

	December 2014	December 2015	% change	October - December		
				2014/15	2015/16	% change
TOTAL	9 184	9 307	1.3%	26 207	26 895	2.6%
Arabicas	5 283	5 980	13.2%	15 842	17 578	11.0%
<i>Colombian Mlds</i>	<i>1 164</i>	<i>1 303</i>	<i>11.9%</i>	<i>3 328</i>	<i>3 782</i>	<i>13.6%</i>
<i>Other Mlds</i>	<i>1 217</i>	<i>1 500</i>	<i>23.3%</i>	<i>3 566</i>	<i>3 984</i>	<i>11.7%</i>
<i>Brazilian Naturals</i>	<i>2 902</i>	<i>3 177</i>	<i>9.5%</i>	<i>8 949</i>	<i>9 812</i>	<i>9.6%</i>
Robustas	3 900	3 327	-14.7%	10 365	9 317	-10.1%

表 5: ニューヨーク及びロンドン先物市場の認証在庫量

	Jan-15	Feb-15	Mar-15	Apr-15	May-15	Jun-15	Jul-15	Aug-15	Sep-15	Oct-15	Nov-15	Dec-15	Jan-16
New York	2.55	2.56	2.60	2.56	2.41	2.43	2.38	2.36	2.28	2.15	2.08	1.95	1.82
London	2.35	2.55	2.84	2.93	3.02	3.12	3.35	3.43	3.43	3.37	3.35	3.31	3.23

単位：百万袋

表 6: 世界のコーヒー消費量

Calendar years	2011	2012	2013	2014	CAGR (2011-2014)
World total	139.4	143.2	147.9	150.2	2.5%
Exporting countries	42.8	44.3	45.3	46.3	2.6%
Traditional markets	77.6	78.4	80.9	81.9	1.8%
Emerging markets	19.0	20.5	21.7	22.0	4.9%

CAGR: Compound Annual Growth Rate

単位：千袋

Full consumption statistics are available on the ICO website at www.ico.org/trade_statistics.asp

ートピックス（１）ー

米国連邦政府は１月８日、食生活指針（Dietary Guideline）を発表しましたが、全米コーヒー協会（N C A）がその内容に関するコメントをウェブサイトに掲載していましたので同協会の公式声明文（Statement）と共にお届けします。昨年６月の全協海外情報４１７号で食生活諮問委員会（Dietary Guidelines Advisory Committee）が、この食生活指針に関連し米国政府に対し米国民の健康の為にコーヒー飲用を積極的に推奨すべしとの答申を出したとのニューヨークタイムズ紙の記事を紹介しましたが、今回発表された食生活指針の内容は同委員会答申に比べかなりトーンダウンした内容になっているようでN C Aは不満を表明すると共に、公式声明文で諮問委員会答申のコーヒーの具体的効用を再アピールしています。

米国政府が食生活指針を発表

2016年１月８日全米コーヒー協会

米国政府は本日『2015年米国民への食生活指針（2015 Dietary Guideline for Americans）』を発表した。コーヒーとカフェインが初めて食生活指針に取り上げられたと言うものの、米国農務省栄養政策・促進センター（C N P P）は政府諮問委員会の助言を全面的に取り上げることを避けたようである。指針によると一日３～５杯のコーヒー飲用は『健康な食習慣に資するものである』としているが、諮問委員会が推奨している健康への具体的効果については一切触れられていなかった。それどころか言葉の上では、矛盾した内容とも言える、『しかし、カフェイン入りコーヒーやその他のカフェイン入り飲料を飲んでいない人には食習慣に取り入れることは勧めない』とも述べている。

最終的にこの様な内容になったのは、この生活指針作成にあたり様々な政治圧力が加えられたことによるものと思われる。最初、米国政府は、食生活指針を見直すに当たり、消費者が食生活においてより健康的な選択ができるよう、科学者で構成された生活諮問委員会に答申を求めた。食生活諮問委員会（D G A C）の答申内容は、コーヒーが健康に前向きな（positive）効果をもたらすというものであった。しかし、この諮問委員会答申は、コーヒーとは関係ないところで多くの食品業界で、例えば食肉業界で、米国民は食生活を変えることを（肉食を控える）勧めるのか等の議論も興り、活発な議論の引き金を引くことになったようである。

結果として、食生活指針に何を記載すべきで、何を記載すべきではないとか、栄養（nutrition）には直接関係ないにも関わらず、また科学的根拠がそれほど十分ではないにも関わらず積極的に推奨する必要があるのかなどの活発な議論が交わされることになったようである。たぶん最終報告書のコーヒーに関する内容が、『健康な食生活には資するが、健康な人には飲むことを勧めない』というよく解らない表現になったのは、諮問委員会答

申のあと繰り上げられた政治圧力のかかった議論の混乱ぶりが反映されたことによるものだろう。

全米コーヒー協会としては、コーヒーを間接的に悪者扱いしようとする勢力と戦う為に、積極的に指針の中に諮問委員会の答申そのものを掲載するよう主張した。我々は食生活諮問委員会の 7 回の会議をフォローし、同諮問委員会及び農務省栄養・促進センターに意見書を提出し、更にワシントンの米農務省栄養政策・促進センターに出向き理事と直接面談する機会も持った。昨年 11 月のこの会合ではコーヒーを指針に含めることを支持する声として歓迎された。多分、その後更なる政治圧力がかかったものと考えられる。

我々は次の手段として、全米コーヒー協会ニュースルームに指針に対する我々の『公式声明文』を掲載することとした。我々はこのニュース記事をモニターするつもりだが、この公式声明を指針のコーヒー関連部分をカバーする為に利用したいと考えている。

一方、諮問委員会の最初のコーヒーを積極的に推奨した答申はそのままで十分価値あるもので、コーヒー業界にとっては有難い内容である。この答申の背景を更に知りたい人は答申の価値についての全米コーヒー協会のコメント及び諮問委員会答申そのものを読んで頂きたい。

『アメリカ国民の為の食生活指針』に関する米国コーヒー協会声明

2015 年版米国民の為の食生活指針には、『適当なコーヒー飲用は健全な食生活に資する』として初めて食生活指針にコーヒーが採りあげられた。しかし、同時にこの食生活指針にはコーヒーがもたらす効用について、米国政府が指名した科学者で構成する食生活指針諮問委員会（D G A C）が認め、且つ食生活指針にも記載するよう勧めたコーヒーの具体的な効用については掲載されなかった。

コーヒーには 2 型糖尿病や心臓血管病のリスクを軽減することを充分証明できる研究が存在し、またカフェインにパーキンソン病の抑制効果があるということもある程度証明できる。。

全米コーヒー協会は、食生活諮問委員会の科学的分析に基づいた勧奨内容（同委員会の最終レポートに記載されていること全て）を支持するものであり、文言に書かれてはいないが食生活指針の精神的支えとして、また健康的な食生活への助言を指針に求める多くの米国民の心に存在する委員会レポートを支持する。

食生活指針諮問委員会の勧告は、コーヒーと健康の強い関連性を示すいくつかの研究（これら以外にも多くの研究が存在する）に基づいたものである。何十年にも亘る多くの研究

によりコーヒーが 2 型糖尿病の進行リスクを軽減するということが証明されている。30 の個別研究及び 1.2 百万人をカバーした最近のメガスタディによると、毎日 2 杯のコーヒーを飲むとこのリスクが 12%減り、6 杯飲むとリスクは 1/3 に軽減されるということである。コーヒーは広く且つ深く肝臓の健康に関わっている。多くの研究でコーヒーは肝硬変、肝臓癌、及びその他肝臓病（例えば、アルコール症や脂肪肝、肝炎なども含まれる）のリスクを抑制する予防物質と緊密に関係していることが証明されている。研究の中には肝硬変リスクが 40%軽減されるというものや肝臓癌リスクが 50%減るなどというものもある。更に最近の 2 つの研究によると長期間コーヒーを飲むとパーキンソン病の進行リスクが減らせると共にその他の神経退行性の疾病にも効果があるということである。

研究者の中にはコーヒーが脳の健康を維持する働きがあることを発見した人もいる。ある研究によるとコーヒーを飲む人は飲まない人に比べ認知低下を 1/4 抑えることが出来るということである。別の研究はコーヒーを飲むとアルツハイマー病の原因物質として疑われているベータ・アミロイド・プラークを減少させる効果があるとしている。更にある研究はコーヒーとカフェインが短期記憶や認識力を高めるとし、また限られてはいるがコーヒーの長期にわたる飲用が認知機能の低下もしくは認知症を予防出来るとする研究もある。更に範囲を広げコーヒー消費と一般的な寿命に関する研究では、毎日 3~5 杯コーヒーを飲むと（これは食生活諮問委員会の推奨水準だが）平均して最高 13%（女性では 19%、男性では 10%）まで死亡リスクを減らせるとのことで、別の研究では一日当たりのコーヒー消費量が 1 杯増える毎に死亡リスクが 3%減るとするものもある。

兎に角、食生活諮問委員会が結論付けているように『適当なコーヒー飲用は健康な食生活には有用なのである』のである。

以上

ートピックス（2）ー

コロンビア FNC ホームページからコロンビアの 2015 暦年のコーヒー生産量が最近 23 年で最多の 14.2 百万袋になったとの内容の記事をお届けします。

ボゴタ、2016 年 1 月 6 日（FNC 公報）

水洗式マイルドアラビカコーヒー世界最大の生産国であるコロンビアは、2015 暦年のコーヒー生産量が 14.2 百万袋（60kg）というこの 23 年間で一度も達成したことのない記録的な水準に達した。また、2015 年 12 月の生産量は前年対比 34%増の 1.4 百万袋となったが、これも 12 月としてはこの 20 年間一度も達成できなかった数量である。

更に注目に値するのは、2012 暦年には 7.7 百万袋強に過ぎなかった数字が 2015 暦年は 14.2 百万袋（60kg）とコロンビアのコーヒー生産量がこの 4 年間で 83%も増加した

ということである。

コロンビア生産者連合（FNC）総裁のロベルト・ベレス・バジェホ氏は『これはコロンビアのコーヒー生産者にとっては朗報であり、コーヒー農家と政府が共に協力してコーヒー農園を更新出来た成果であり、お蔭でコロンビアを再び国際コーヒー市場の中で重要なプレーヤーの地位に引き上げることができた』と語った。

更に総裁は全てのコーヒー農民に対しエルニーニョ現象により被るサビ病（主に乾期に繁殖する害虫）対策として、引き続き現在の農法を続けるよう呼びかけた。

2015 暦年コーヒー生産量（60kg）

2015 年 1 月～12 月	14,175,000 (+17 %)
2014 年 1 月～12 月	12,140,000

2015 年 12 月コーヒー生産量（60kg）

2015 年 12 月	1,454,000(+34%)
2014 年 12 月	1,086,000

コロンビアのコーヒー輸出量は 12.7 百万袋を上回った。

生産量同様、コロンビアの輸出量は増加傾向が続いた。即ち、2015 暦年の輸出量は 12.7 百万袋（60kg）を上回り、前年の 10.9 百万袋に比べ 16%増加した。

12 月は、コロンビアの輸出量は 1.2 百万袋となり、2014 年の輸出量 1.1 百万袋に比べ 13%増えた。

今コーヒー年度（10 月～12 月）について言えば、3.5 百万袋となり、前年同期間に比べ 14%増の 3 百万袋強となった。

2015 暦年コーヒー輸出量（60kg）

2015 年 1 月～12 月	12,709,000(+16%)
2014 年 1 月～12 月	10,957,000

2015 年 12 月輸出量

2015 年 12 月	1,191,000(+13%)
2014 年 12 月	1,056,000

以上